第１回帯広市自転車活用推進計画策定検討協議会　議事録

１　日時・会場　　令和４年９月１日（木）１３：３０～１４：４０　市庁舎１０階第５Ｂ会議室

２　出席者

（１）委員　　村田　浩一郎、西尾　峰明、鎌田　道也、須田　健介、須藤　克志、長沢　敏彦、広沢　正明、高間　裕一、谷澤　正和、佐藤　淳、礒野　照弘、山下　真紀子
（以上、１２名、順不同、敬称略）

（２）事務局　　観光交流室長　加藤　帝、観光交流課長補佐　阿部　恭子、
都市政策課交通政策係長　涌井　一憲

２　会議次第

（１）開会

（２）挨拶

（３）委員紹介

（４）議事
　ア　役員選出
　イ　地方版自転車活用推進計画の概要について
　（ア）帯広市自転車活用推進計画の策定について
　（イ）帯広市における自転車交通の現状
　ウ　帯広市における自転車活用推進施策の方向性について

（５）その他

（６）閉会

３　議事及び質疑

（１）開会、挨拶、委員紹介

帯広市自転車活用推進計画策定検討協議会設置要綱（以下、「設置要綱」と言う。）第３条第２項各号に基づき各委員に委嘱状を交付し、開会した。礒野経済部参事から挨拶し、事務局から委員紹介を行った。

（２）役員選出

設置要綱第第５条第２項に基づき、会長に、礒野　照弘委員が就任し、礒野会長が、髙橋　清委員を副会長に指名した。

（３）地方版自転車活用推進計画の概要について

事務局より、地方版自転車活用推進計画策定に至った経過、帯広市自転車活用推進計画の概要、策定の流れ、帯広市における自転車交通の現状について説明した。

＜質疑等＞

（鎌田委員）現状について、自転車道等の整備状況を教えてほしい。
（事務局）　一例としては、国道 38 号線柏葉高校前、市道栄通、白樺通等に自転車道[i]を整備。

（鎌田委員）現状について、各市道に示されている台数はどういう意図か。
（事務局）　１日当たりの自転車交通量を表している。

（西尾委員）現状について、実線等の凡例を示してほしい。
（事務局）　一点鎖線は国道、点線は道道、実線は市道を表している。

（４）帯広市における自転車活用推進施策の方向性について

事務局より、帯広市自転車活用推進計画策定の目的や適用範囲、計画期間、策定の流れ、帯広市の関連計画等について説明した。

＜質疑等＞

（鎌田委員）報道によると、全国のヘルメット着用率は、北海道は最下位であるとのこと。
スピードの出やすいスポーツバイクが増加傾向であり、自動車と自転車の事故を懸念している。ヘルメットの着用率の向上を図る取り組みを是非行ってほしい。
（事務局）　帯広市では、学生のヘルメット着用は努力義務とされている。本日欠席されているが、帯広警察署からは、ヘルメットの着用率向上に向け、協力して取り組んでいきたいとのお声をいただいており、市としても今後検討していきたい。

（鎌田委員）高校生の自転車を点検することがあるが、整備不良である自転車が多い。安全指導は小学校１～２年生には実施しているが、行動範囲が広がる高学年、中高生にも交通安全の指導を２年に１回行う等、継続的に取り組んでほしい。
（事務局）　市では、小中学校への点検整備の推進を含めた安全指導を実施しており、今後も継続していく考え。
（礒野会長）須藤委員に高校生の自転車通学の現状を教えてほしい。
（須藤委員）帯広柏葉高校で言うと、生徒の半分が自転車通学しており、年２件ほど重大な事故ではないが、接触事故が発生している状況。点検整備状況については、学校側でブレーキやライトの点検を実施しており、整備不備者には改善指導を行っている。

（西尾委員）安全面については、中高生で流行しているロードバイクは、「見栄え」で利用している傾向にあるように思う。また、高齢者は、「事故にならないだろう」と思い込み、油断している方が多いように感じている。ヘルメット着用のほか、自転車の安全利用についても啓発活動に取り組んでほしい。

自転車利用の活性化については、地元の人々が自転車で観光地に行くような仕掛けが必要と考えている。また、彼らがサポーターになって初めて自転車で走りやすい環境が

生まれ、管外やインバウンドの自転車利用が促進されると考えている。
自転車施策について、今後市民への情報提供が必要と考える。

（村田委員）現状では、帯広市のオリジナリティがなく、他自治体との差異がなくなってしまうのではと懸念している。

（事務局）　本日お示ししたのは骨子となる事項であり、これにご意見をいただこうというもの。本協議会終了後に、改めてご意見を徴取したく、意見聴取書をお送りするので、是非ともアドバイスをお願いしたい。

（礒野会長）交通安全のほか、各施策を誰が主に担っていくのかについても今後整理していきたい。

（西尾委員）団体等の領域で分けることなく、相互協力しながら取り組んでほしい。

（須藤委員）策定後について、児童生徒・学生に対し、安全意識を身に着ける施策が必要と考える。

（礒野会長）重要なポイントであると認識している。具体的な方策について、今後一緒に検討していただきたい。

（鎌田委員）帯広柏葉高校周辺に自転車道が整備されたが、整備前整備後でアンケートなど行っているか。また、整備により生徒の接触事故が減ったのか。

（須藤委員）アンケートは行っていないが、所感として、事故の危険性は減っていると感じる。

（深谷委員代理）道路管理者側としてもそのように認識している。

（須田委員）今後、インバウンドの回復も想定されるが、新千歳空港がメインであり、自転車と組み合わせ、帯広へ呼び込む手段も検討すべきと考える。

（事務局）　計画は多岐にわたるが、本件は観光交流課が中心となって取り組んでいく。

（長沢委員）現状では、折りたたみ自転車に限り、バスへの持ち込みを許可している。

（西尾委員）自転車活用は、帯広だけでなく十勝管内にも広げて欲しい。サイクルトレインなども検討願いたい。

（礒野会長）将来的には、十勝全体で相互協力できる体制が望ましい。

（事務局）　各自治体の状況も鑑み、連携して対応していきたい。

（西尾委員）タンデム自転車について、どのように考えるか。

（事務局）　現状、道内ではタンデム自転車の公道走行が認められている。今後、皆様と議論していきたい。

その他、協議会後に提出された意見

（髙橋副会長）積雪があり、自動車社会でもある北海道で策定するのは難しい面もあるが、計画策定に向けた動きがあることを嬉しく思っている。

　帯広市の将来構想・まちづくりの中に自転車をどう絡めていくのか考えることが重要であり、そのためにも帯広市の状況分析や庁内の合意形成をもっと進めていく必要がある。例えば、自転車移動の安全を確保できるまちなど、これだけはやるということを決めるとよい。それがまちの特徴になっていく。計画の重点や対象をはっきりさせるためにはデータ分析が必要となる。北海道ＴＯＫＡＣＨＩサイクルツーリズムルート協議会は多くの情報を持っているので、情報の共有をはじめ協働して進めて頂きたい。

道路整備について、自転車が走りやすい環境を整備し、そちらにサイクリストを誘導するという考え方も必要となる。特に安全面での整理は、観光・通学の両面からも重要である。最終的にはマナーに頼らざるを得ない状況もあるが、矢羽根などを目立つように整備していくことが必要である。環境面や健康はテーマとしても重要であると考える。

ナショナルサイクルルート（以下、「ＮＣＲ」という。）については、日本の中でも別格であり、品格が必要との話もあるが、ＮＣＲと一体的なまちづくり、安全対策、サイクルツーリズム推進など、NCR の帯広としてのストーリーも必要である。帯広駅周辺はサイクルルートとしてのみならず、自転車走行の起終点として重要なエリアである。サイクルツーリズムでは物流（荷物の預かり含め）との連携が重要である。荷物を持たないで自転車に乗ることが、どれほど楽であるか体験してもらいたい。

事務局の皆さんにも是非自転車に乗ってみて欲しい。見えることが変わってくるので、体感してほしい。

（西尾委員）自転車ネットワークの構築に際して、ＮＣＲの核である、帯広市駅前を意識して、帯広市民の方々にも利用できるようなコース設定があるとよい。

高校生の自転車通学など、スポーツ車の活用が増加しているように見え、ロードバイクの事故リスクは高さからも、高校の通学路で自転車が集中する道路の整備から見直していってほしい。利用促進の取り組みは大切だが、並行して、利用者が安心して通行できる取り組みが同時に求められている。

市民の健康増進に向けた自転車活用とサイクルツーリズム推進の一体化は、多くの団体・関係者との連携を可能にするとともに、市民にとっては新たな帯広発見につながる。既存の団体等のサイクルマップを十分に生かすことができる。

道東地区は移動が広域であるため、十勝に出入りするサイクリストの負担を考慮した取り組みが必要。路線や期間限定でもよいので、帯広―釧路間のローカル列車の一部を輪行袋なしの自転車を乗り入れられるような取り組みがあるとありがたい。観光だけでなく、一般利用も含めるとそれなりの利用はあるのでは。帯広・釧路・沿線町村が一体的に取り組めば可能性は期待出来るのではないか。

ヘルメット着用と自転車保険の加入は、軽車両という認識と理解のもと、義務化してもよいのでは。高齢者と併せ、重大事故につながるケースが多い。

---

[i] 専ら自転車及び歩行者の一般交通の用に供する道路又は道路の部分